

第14回新居浜市今後の学校の在り方に関する検討委員会概要

日時 令和3年2月8日（月）16:00～17:00
会場 消防防災合同庁舎 5階 第2会議室
出席者 小笠原忠彦委員外10人、事務局職員7人
傍聴者 なし

1 教育長あいさつ

第14回、みなさんから頂戴した色々な意見を取りまとめて答申（案）が出来ておりますけれども、みなさんの最後、忌憚のないご意見をいただきまして、明日の、新居浜の子ども達が幸せになるための、ご提言を頂戴できたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2 小中一貫教育制度について 制度の概要について説明

<意見>

- 資料をみても、いまいちわからない部分がある。子ども達がどうかはわからないが、先生方はすごく忙しいと聞いている。
- 小中一貫制度の導入について、この場で議論するのか、それともその先で行政の方でやるのか。
- 検討委員会の中で問題になったのは、児童・生徒数の減少により、学校の統廃合をどうするかということであったが、小中一貫教育制度に移行しても児童数は減っていくので、喫緊の問題解決にならないのではないか。
- 通学距離や地域性を考えると、小中一貫校も選択肢としてありうるのではないか。

3 新居浜市今後の学校の在り方検討委員会答申（案）の確認について 答申（案）の修正内容について説明

<意見>

- 国は35人学級としているが、新居浜市が目指しているのは30人学級か。
- 諮問書に対する回答として、全体を通してみればわかるが、端的な回答も必要ではないか。
- 統廃合は避けて通れないということは市の長期計画にも入っているのか。
- 費用等、難しい課題はあると思うが、もっと大胆な発想で、将来の子ども達のことを考えて新しい学校づくりができないか。

<その他意見>

- 先生の成り手が少なり、募集してもなかなか集まらない状況で、学校現場にも色々と問題があるのではないかと思うが、教育委員会として把握はしているのか。昔と違い世の中の状況もだいぶ変わってきたので、先生のなり手を増やすためにも環境改善のために何かPRしていく必要があるのではないか。

○コミュニティ・スクールをうまく活用し、地域と学校が一緒にうまくやっていく方法を考えるべきではないか。